

R7学校自己評価まとめ

※赤字の意見・課題については特に、各分掌での検討・回答をお願いします。
その他の意見については、必要に応じて検討・回答をしてください。

No	具体的な方法	平均	自己評価・課題	分掌
1	・主体的・対話的で深い学びを実現するために、生徒が考える時間を確保し、グループによる学び合い、授業や単元の振り返り等を行う	4.13	振り返りシートを用いた振り返りが効果を見せ始めたと思います 個別、小集団学習に主体的に取り組んだ。振り返りの方法を工夫しながら系統的な学びができるように次年度に生かしていく。 毎時実施することはできなかったが、作業や活動の中で学び合いの時間を多くとれるよう取り組んだ。 グループによる学び合いは実施できているが、単元の振り返りまでを一環とできていない単元があった。	研修
2	・話し合い活動を取り入れた協働課題解決型授業の実践	4.00	話し合い活動の機会を多く設けたが、課題解決型の授業は少なかった。 実践できる授業がすべてではないが、多く取り入れている。 ジグソー法などに挑戦した。今後はより有効に協同課題解決ができる話し合い活動を設定す	研修
3	・タブレット等のICT機器を活用した授業の推進	4.00	プレゼンテーションソフトの活用やデータ入力などICTスキルを活用した学習場面を設定できた。 教科、学年や単元によるが、多く活用している。 ICT機器を使用しているが、使用するだけでなくさらに主体的に学ぶための活用法に改善する。	ICT
4	・後期にかけて定期テスト前補充学習、質問教室の充実（スタディルーム）を図る	4.23		
5	・夏季休業中のパワーアップ教室の実施（3日間）	4.52		
6	・朝の時間を活用した朝学習や読書活動の充実	4.77	静かに実施する体制ができている。 決まった時間に落ち着いた雰囲気の中朝学習や朝読書に取り組んでいる。	教務
7	・学校司書との協働による学校図書館の利用の充実	4.00	今年度は活用ができていません。 昨年度は図書室を利用した学習を行ったが、今年度は実施することができなかった。 国語だけでなく、いくつかの教科で学校図書館の図書を活用して学習を行うことができている	教務 研修
8	・教科説明会資料を活用した学習指導とアドバイス内容の充実	3.73	よりよい学習指導を行えるよう努めます。 教科説明会資料を活用していない。把握していなかった。	教務
9	・タブレットの活用による家庭学習の推進	3.86	家庭学習の「推進」はできていませんが、家庭学習をだしたことはあります。 研究の必要があるが、もっと授業で家庭学習用の課題をタブレットで出せたらなと計画しています。 多くの教科で自主的に活用できるように指導されている。 タブレットの活用による家庭学習を推進したことがない。	ICT
10	・英語、漢字検定等及び各コンクールへの参加の奨励	4.40		
11	・検定試験前の対策教室の実施	4.29		
12	・教科担当や部活動から、検定参加の積極的な働きかけ	4.14		
13	・学校、学年行事をとおして、学級でのよりよい人間関係の構築	4.43	学級での人間関係の形成に必要なソーシャルスキルの育成に取り組んだ。 学年での話し合いを重ね、すぐに対応している。	
14	・体験活動を通して、豊かな人間性や社会性、人権尊重の意識を育む	4.45	体験活動に前向きな姿勢の生徒が多い。振り返りをする場面が設定されている。	
15	・生徒会や委員会活動の活性化を図り、生徒の意見が反映され、生徒が主体となって学校を作り上げていく意識の醸成	4.45	委員会の中で前例にとらわれず、生徒の意見が反映されやすいような運営になっている。	生活
16	・「特別の教科 道徳」における道徳授業の改善と内容の充実	4.27		
17	・授業をとおして、人権意識向上と他者を思いやる心の育成	4.09		

No	具体的な方法	平均	自己評価・課題	分掌
18	・いじめ、不登校の出現率ゼロを目指した教職員による教育相談、個人面談等の実施	4.45	教育相談を都度行い、学年として個人との面談等の取り組みを把握し実行している。	教育相談
19	地域と協働して不登校生徒対応の充実を図る	3.95	CSとの懇談等で居場所作りに関する情報交換をすることができた。 教員だけで対応するのではなく積極的にSCやSSWに頼ることができている。	校内
20	・1年生全員を対象としたSCによる面談の実施	4.68	実施することができ、1年生の相談をSCにしやすくなっている印象。	教育相談
21	・「なんでも相談アンケート」や「ふれあいトーク」による生徒の心の把握と相談の充実	4.65	ふれあいトークでは他学年でありながら相談を実施した生徒との日常的なつながりができた。	教育相談
22	・「学校いじめ防止基本方針」に基づく指導の徹底と学級担任による状況把握、学校での年3回の実態調査の実施	4.68	学級担任だけでなく学年で情報共有ができています。	生活
23	・校内いじめ対策委員会を中心とした組織的で迅速な対応、いじめの解消、解決。	4.57	先生方との会話等での情報を得る努力を重ねている。 学年だけでなく校内いじめ対策委員会で共有され、学年では迅速な対応をしている。	生活
24	・保健体育や部活動指導における体幹運動、持久力向上の取り組み	4.33		
25	・養護教諭、栄養士を中心とした食物アレルギー対応と、栄養士による食に関する教育の充実	4.70	アレルギー対応や食に関する教育は常に充実しているように感じる。	食育
26	・感染症予防についての指導の徹底を図る	4.21	自己管理スキルと関連して適宜生徒に対して予防への意識を高める指導をしている。	保健
27	・様々な状況を想定した月1回の避難訓練等の実施	4.70		
28	・実技教科の年間指導計画に沿った安全指導	4.36		
29	・生徒会を中心に「SNS東田ルール」を作成させ、生徒への危機管理指導の実施	3.96	年度当初に、安全指導の1つとして、毎年知らせる機会を作るのはどうか。 内容を把握できていなかった。	生活
30	・発達段階に応じた学習活動の充実	4.17	個別学習にて進路に関する学習を実施できた。	教務
31	・キャリアパスポートの作成	4.48		
32	・あらゆる場面で、合理的かつ効果的な小中連携を模索し、生徒にとって義務教育9年間で系統的でよりスムーズに過ごせる環境作りを行う。	4.09	昨年度よりも中学校が主体となり、小学校の支援教室との情報交換や小学校段階での事前の指導目標について共有することができた。 生徒（児童）との向き合い方に中学校と小学校で温度差があるように感じる。子どもたちの抱える課題の解決、子どもたちのより大きな成長のためには、可能な限り早い段階での対応や援助が必要だと思う。（中学校側からのアプローチは難しいと思うが…）	教務
33	・小中一貫を意識したコミュニケーション力を高める生活指導の充実	3.96	次年度特別支援教室の入室生徒については、希望に応じて体験授業を実施するなど工夫をしている。 小学校でどのような生活指導が行われているかあまり把握できていない。	教務 生活
34	・ICT機器の積極的な活用推進	4.30	支援に有効なICT機器を取り入れた授業を実施できている。 ICT支援員による授業観察（巡回）があると、活用実績の増加や新たな提案が期待できる。	ICT
35	・工夫して効率的な授業研究を実施	4.22	指導と評価のサイクルを意識し授業を進めている。	研修
36	・相互授業参観をととした相互の指導力の向上	4.39	互いの授業への参加、協働する機会を常に設けている。 相互授業参観での協議は二つの観点で行ったが、そのほかの授業内の指導力に関しても協議してみたい。	研修
37	・体罰や不適切な指導の根絶に向けた服務事故防止研修の年間3回実施	4.79	服務研修に集中して参加し、防止の意識を高めた。	
38	・職員会議時に注意喚起を促す資料の提示	4.71		
39	・ヒヤリハット事例をもとにした校内体制の強化	4.67	回覧資料を見るだけでなく、自分なりの対処法を考えることに努める。 毎度ヒヤリハット事例の配信がされ、確認できている。	

No	具体的な方法	平均	自己評価・課題	分掌
40	・企画会議の充実による教育活動や学校行事等の組織的な対応と事案決定の流れに沿った起案	4.58	教育活動や行事に組織的な対応をしている。 運動会予備日のお弁当給食について、安全に提供することがとても難しいです。食べやすいメニュー（カレーなど）にして、通常給食（食器で配膳）にすることは可能でしょうか？（時間・いすなど）	※体育的行事・給食・教務で検討
41	・OJTや外部研修会を取り入れた若手教員の育成	4.35	若手教員へのコミュニケーション機会を増やす。 研修が都度設定されている。	
42	・ライフワークバランスを考えた会議等のスリム化	4.42	毎週の打ち合わせの進行など議題を絞りながら効果的なものになるように努めている。 会議の時間設定が有効である。	
43	・働き方改革への取り組みについて教職員意識改革と課題改善	4.17	年間を通しての見通しを立てる中での書類の準備や行事の精選や実施後の振り返りの機会を充実するなど工夫をする。 先輩教員からの声かけがあるが、その通りに業務を終わらせることが困難になってしまっている。	
44	・特別な支援を要する生徒への合理的配慮に基づく支援の充実	4.22	校内委員会での情報交換に加えて、意思決定する機能を充実させることに努めていく。 配慮しようと心掛けているが、十分にはできていない実感がある。同じ課題ができないときにはどうしたらよいか、個別に考えなければならない。 学びの教室の指導と授業が重なってしまうと、実験や実習等の場合の補充が難しいです。	校内
45	・SC、SSW、特別教育支援課との協働による支援の充実	4.43	支援課の方針と校内での支援の乖離はあるが、双方間での役割分担や情報交換の機会を重視していく。	校内
46	・毎週の校内委員会にて情報交換による支援方法の共有化	4.63	校内委員会参加者以外の教職員への情報伝達の仕組みを整えていく。 校内委員会の資料が見やすく、すぐに情報交換の内容を把握することができる。	校内
47	・生徒が集中して授業に取り組めるユニバーサルデザインを取り入れた学習環境の整備	4.00	個別最適な学びと協働的な学びを軸にした授業づくりを改めて考えていけるように努める。 テスト問題には配慮できている。そのほかの資料でも意識的に整えていきたい。	校内
48	・生徒会を中心とした地域行事への参加率の増加	4.09	ボランティア活動などの参加者が一定数いる。いない場合でも再度呼びかけると立候補がある。	生活
49	・学校運営協議会、学校支援本部、PTA等との有機的な組織を編成し、協働体制の構築	4.26	各行事や検定等で協働体制が構築できている。	
50	・学校だより、学年だより、ホームページの定期的な発行・更新と記事の多様化	4.38	支援教室だよりを毎月発行しているが、その浸透や効果について適宜見直していくように努める。 生徒の人権に配慮しながら学校生活の様子を配信することができる。	
51	・地域の活動に積極的に参加・協力し、活動をとらして社会の一員であることの自覚と社会力の育成	4.09		
52	・積極的な地域資源・人材等の活用を行い連携の強化を図る	4.09		
	全体平均	4.32		